

2015年度マレーシア日本国際工科院教員派遣に関する募集要項(再公募)

マレーシア日本国際工科院

I. MJIT の趣旨・経緯及び教員派遣の目的

1 MJIT の趣旨・経緯

マレーシア日本国際工科院(MJIT)は、マレーシアにおいて日本式工学教育を行う高等教育機関であり、2010年8月、以下の趣旨・経緯により設立されました。

- (1) マレーシア政府は、マレーシア工科大学(UTM)の下、独立性の高いインスティテュートとして、マレーシア日本国際工科院(Malaysia-Japan International Institute of Technology, 以下「MJIT」という。)の設立を計画。
- (2) MJIT は、マレーシアが過去30年近くにわたり進めてきた「東方政策」の集大成とも言うべき日・マレーシア間の象徴的な重要プロジェクトであり、このような人的・知的交流は両国関係をより強固にする礎となる。こうした認識の下、我が国政府はマレーシア政府と協力して、政府レベルでの協力及び大学間協力の促進を行うべく準備を進める。
- (3) MJIT に協力する日本国内の大学は、コンソーシアムを形成し、その下で MJIT の教学・研究・経営等、全体の運営に関する提言や、教員派遣及びその支援を行う。

2 教員派遣の目的

上記1の MJIT の趣旨を実現するため、コンソーシアムは以下を目的として教員を派遣します。

- (1) ASEAN における日本式工学教育を担う新たな中核的研究拠点として MJIT を整備し、高い技術と研究能力とともに優れた労働倫理を備えたグローバル人材を育成する。
- (2) 上記(1)のため、MJIT における講座の確立及び継続的かつ健全な運営を実現する。

3 MJIT の求める人材

MJIT は主に以下の MJIT 行動計画に資する日本人教員を求めています。

- (1) ニッチ及び産業分野における大学院教育に焦点を置く。(日本の先進技術・工学に基づく基盤技術。マレーシア及び ASEAN が求める先進技術・工学。日本の先進技術・工学に基づく基盤技術を育成するマネージメント。)
- (2) 日本の大学とのジョイントディグリー又はダブルディグリーの構築。
- (3) ASEAN, 中東, 日本へのプログラムのグローバル化。
- (4) 日本式工学教育の導入。特に講座制度と知識・経験・自学(KES)のサイクルの確立。
- (5) 日本の大学との研究協力や共同研究の推進。
- (6) 日本人教員とマレーシア人教員との協力。
- (7) 教員及び学生の相互派遣を推進。
- (8) マレーシアと日本との間の連携枠組みの確立。
- (9) MJIT における研究機材の充実化。

(10)産学連携の推進。

(11)マレーシアを始めとする ASEAN における他大学との国際共同利用施設としての活動。

II. 募集内容

1 場所

マレーシア工科大学内 MJIT(在マレーシア, 2011年9月開校。)

2 公募分野

以下の分野について派遣教員を募集します。

電子システム工学 (学部・大学院, 2011年9月開講。)

- 1) High Performance Computing and Computational Intelligence Engineering

3 業務

派遣教員の業務は主に以下のとおりです。

- (1)学部・大学院学生の教育及び研究指導(授業担当を含む。)
- (2)講座の立ち上げ、運営
- (3)学科運営に対するアドバイス
- (4)マレーシア人教員への日本式工学教育方法の伝授
- (5)マレーシア人教員, 特に若手教員の学位取得推進

4 待遇

待遇及び職務については, UTM/MJIT の定めるところによります(待遇概要及び決定に係るプロセスは、「MJIT 長期派遣教員の職位・給与に関する手引き」参照。)

5 派遣期間

派遣期間は以下の通りです。

長期派遣(原則3年間。延長更新の可能性あり。)着任は12月1日以降できるだけ早い時期となります(着任時期は応相談)。

ただし, 3年未満の派遣希望がある場合は, 柔軟に対応する

6 条件

派遣条件は以下のとおりです。

- (1)原則として着任時に68歳以下であること(ただし, MJIT との協議によってはこの限り。でない。)ただし、本公募に関しては若手教員の派遣を強く希望する。
- (2)原則として博士の学位を有すること。(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)Professional Engineer の資格があれば、尚可。
- (3)大学, 研究機関又は企業での当該分野での研究, 教育又は実務の経験を20年以上有すること(但し, 講師(Senior Lecturer)の場合は3年以上とする。)
- (4)上記3に関連する実績を有すること。

- (5) MJIT での教育・研究及び学生中心の新しい工学教育研究体制の確立並びに、その実施に関心と情熱を有すること。
- (6) 国際協力、特に海外の大学間協力の経験を有することが望ましい(JICA 事業を含む。)
- (7) 心身ともに健康であること(UTM によって健康診断書の審査が行われる。)
- (8) 業務遂行に必要な英語力を有すること及び英語での論文・学会発表又は著書・編著書があること。
- (9) 教育上の優れた能力を有すること。
- (10) マレーシアその他 ASEAN 地域の研究者又は技術者との共同研究等の活動実績があることが望ましい。
- (11) 日本国籍又は日本の特別永住者資格を有すること。

7 提出書類

応募に際しては、以下の書類を提出してください。(英文)

(1) 履歴書(別添2のフォームに記入。)

記入に当たっては、以下について英文で記入してください((b)~(d)については、可能な限り詳細に記載のこと。)

(a) 名前, 年齢・生年月日, 出生地, 国籍, 既婚・未婚別, 性別, 連絡先(職場及び自宅), 専門分野, 学位, 学歴, 職務歴, 賞罰, 宗教

(b) 活動実績報告

研究実績, 教育実績(修士・博士指導人数, 英語での講義実績), 学会及び社会における活動(所属学協会及びその学協会での役員・委員歴, 国際会議委員歴, 受賞歴等), 産学連携実績, 大学運営実績。特に, マレーシアを含む ASEAN 地域の研究者ないしは技術者を行った共同教育・研究事業の実績(コンサルタント, JICA 専門家等としての実績を含む。)

(c) 研究業績目録

業績(学術論文, 原著・編著書, 総説・学術資料等の名称, 発行年月, 発行所・発行雑誌等), 国際会議・学会発表(演題名, 発表者, 学会名, 発表年月等), 特許等を分類別に明記すること。

(d) 科学研究費, 共同研究・受託研究等の競争的研究資金の獲得状況(代表者分のみ)

(e) 2名以上のレファレンスの氏名, 所属, 連絡先。

(2) MJIT における研究テーマ

応募分野に関連して、MJIT 博士課程の学生が実施する研究テーマを 2 つ提案し、各々の概要について、A4 で英文各1枚、合計2枚程度にまとめる。

なお、コンソーシアムからの推薦決定後、カバーレター、戸籍謄本又はパスポート写し(又は在留資格証明書等)及び健康診断書を提出する必要があります。

(3) 別添3 ESE 応募整理票

派遣可能期間等をご記入ください。

(4) その他

上記書類以外で、特にアピールしたい点などについては、別添でご提出ください。

8 応募締切り

応募締切りは以下のとおりとします。

2015年7月10日(金)

書類については、毀損や改変を防ぐため、PDF 化し、下記あて提出願います。

送付先： 慶應義塾大学 理工学部 学生課 国際担当

E-mail: ic-yagami@adst.keio.ac.jp

※ メール件名に【2015 年度電子システム工学長期派遣教員応募(大学名)】と記載願います。

※ ※ 書類選考を通過した場合、面接は7月27日前後を予定しております。

9 備考

- ・ 派遣教員の所属大学には、MJIT 派遣後も当該派遣教員との雇用関係が継続し、かつ派遣中の給与が所属大学を通じて支給される場合、日本側大学負担社会保険費用として、課税対象基本給の15%が UTM から支給されます。
- ・ MJIT は、独立行政法人国際協力機構による円借款及び技術協力により、2018 年 6 月まで支援されます。支援期間が終了した後も、UTM との間で契約更新を行うことは可能となりますが、待遇等については、「MJIT 長期派遣教員の職位・給与に関する手引き」に依らず、新たな基準が適用となる可能性があります。
- ・ 選考は、書類審査及び面接により行われます。面接等のため選考委員会に御出席いただくことがあります。
- ・ 学科別小委員会は、MJIT コンソーシアムの下部組織であり、書類審査及び面接により派遣教員候補を同コンソーシアムに推薦することを役割とします。同コンソーシアムが派遣教員候補を了承し、UTM が最終的な派遣教員を決定します。
- ・ 提出された書類は、厳重に保管・管理し、審査終了後は責任を持って破棄します。また、提出いただいている資料に含まれる個人情報、選考以外の目的には使用しません。
- ・ 応募書類は原則として返却いたしません。

【別添】

- 1 MJIT長期派遣教員の職位・給与に関する手引き
- 2 履歴書(Curriculum Vitae)フォーム
- 3 ESE 応募整理票

以 上